

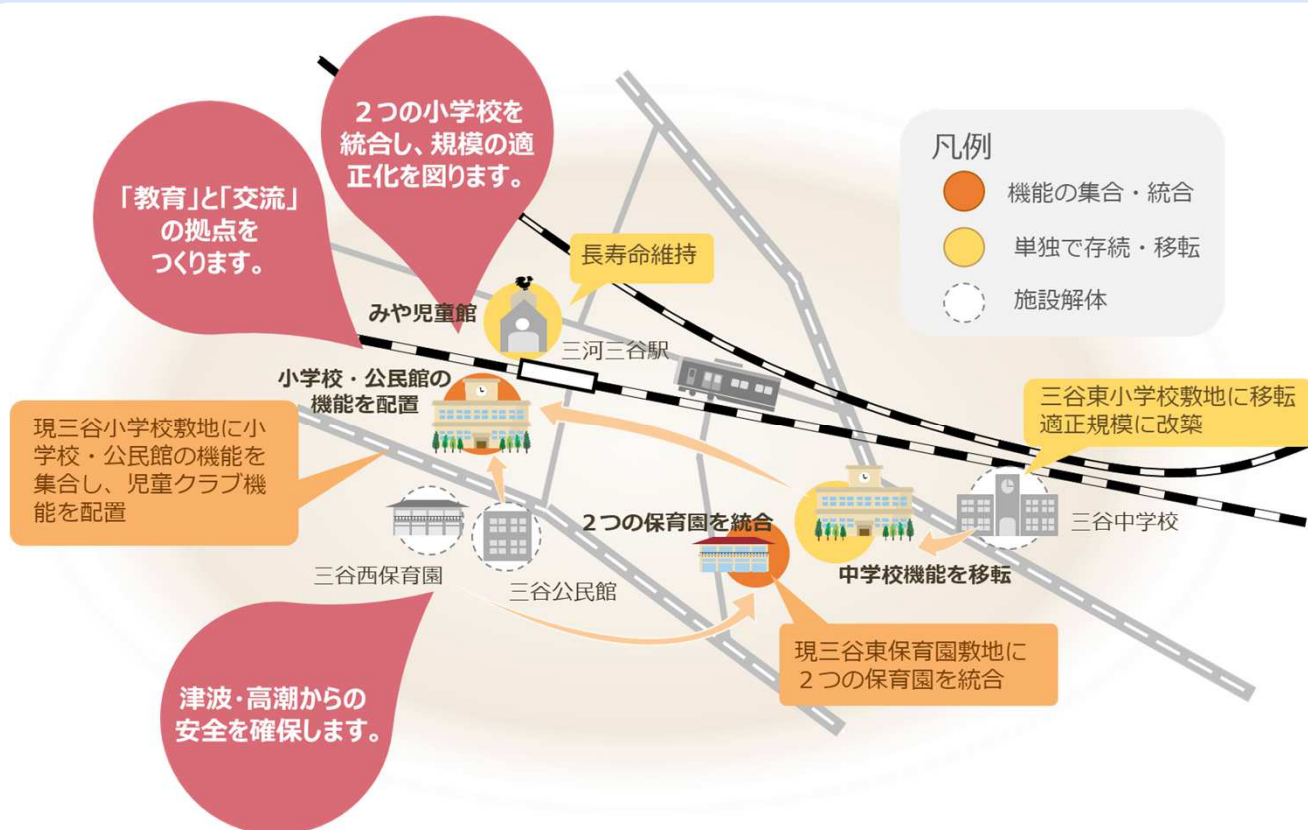
蒲郡市公共施設マネジメント実施計画に基づく 三谷地区個別計画

コンセプト

災害からの安全を確保し、
“まちの中心部”に
「教育」と「交流」の拠点をつくる

施設再編 の内容

- 2つの小学校と公民館の機能を現在の三谷小学校敷地に集合させ、学校規模の適正化を図るとともに、「教育」と「交流」の拠点を形成します。
- 津波・高潮浸水想定域に位置する三谷西保育園を三谷東保育園敷地へ移転・統合することで災害からの安全を確保します。
- 児童クラブの機能は、小学校と同じ敷地に設けます。
- 三谷中学校は、現在の三谷東小学校敷地に移転し、適正規模に改築します。
- みや児童館は、現地で長期にわたって利用できるよう適切に維持していきます。



期待される 効果

教育環境の充実

- 小学校の統合により、将来にわたる教員の確保や設備の充実をしやすくなり、充実したきめ細かな教育環境が保たれる。
- 学校規模の拡大により、児童が互いに見習い切磋琢磨する環境が充実する。

安全性の確保

- 津波・高潮の浸水想定域に位置する施設を海拔の高い敷地に移転することで、災害時の被災リスクを軽減します。

地区のまとまり

- 古くからのまちの中心部に位置し、多くの人にとって集まりやすい現在の三谷小学校の位置に日常的に多くの人々が訪れる地域活動の拠点ができることで、地区住民同士の交流が活発になる。
- 地区の行事や活動の際に、体育館やグラウンドなどの学校施設を利用しやすくなり、交流機会が充実する。

活動の拡大・充実

- 施設や設備の相互利用や運営面での連携により、特別教室での地域活動など、各施設の活動の幅が広がる。
- 高齢者が地域の活動に関わる機会など、利用者の活動機会が増える。

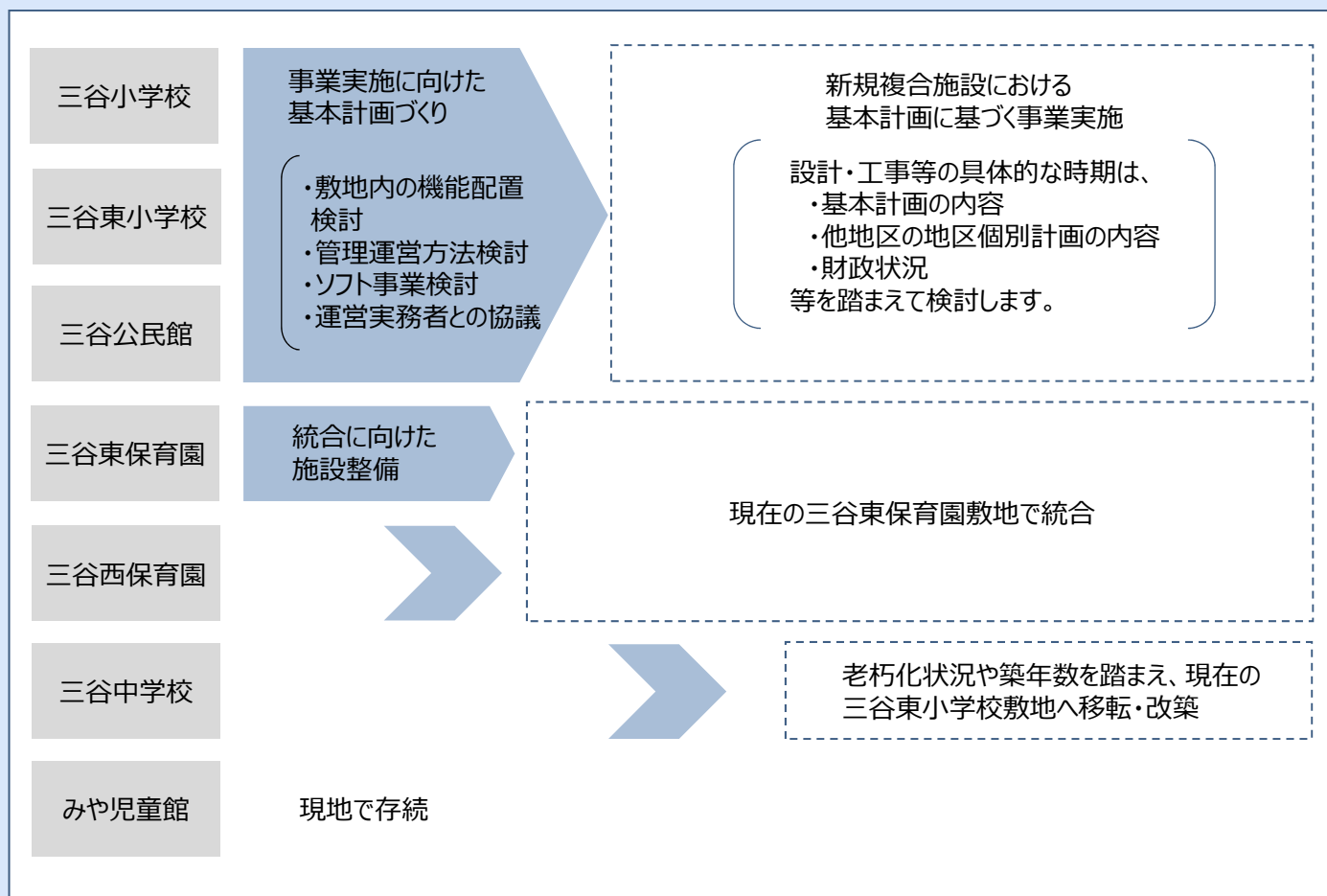
費用の縮減

- 施設の共用や規模の適正化により維持更新費用が縮減できる。また、運営の効率化や一元的な管理により、運営面での費用の縮減が可能となる。

- 施設整備について詳細な検討を行う中で、駐車場・グラウンドなど、必要な機能を確認し機能の維持に努めます。
- 子どもの安全確保や学校教育に支障が出ないように十分に配慮して、施設の設計や運営方法の検討を進めます。
- スペースの相互利用や運営での連携が円滑に行われるよう設計上の工夫を行います。
- 学校と地域の連携を深め、交流を促進できるよう、人員体制や運営体制を整えます。
- 施設の整備に際して、若者や子育て層などの同世代での交流や子どもたちの放課後の学習などで利用しやすいよう機能や運営方法を整えます。

再編を
進める上で
配慮すること

施設整備についての今後の取り組み



本計画の見直しについて

- 本計画は、今後の社会状況、経済・財政状況、ニーズの変化に対応するため、見直しを行い内容を変更する場合があります。

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画に基づく三谷地区個別計画

発行 愛知県蒲郡市
愛知県蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1111 (代表)

発行年月 令和4年12月



地区の皆様の思い

蒲郡市では、小中学校・保育園・児童館・公民館の再編にあたり、地域の特性や特徴を施設に反映し、再編がまちづくりにつながるように、地区の住民の皆様のご意見を伺う機会を設け、市民協働により、中学校区を単位とした「地区個別計画」を策定することとしています。

三谷地区の皆様のご意見を伺う機会として、「三谷地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を平成30年7月から平成31年3月にかけて開催しました。また、オープンハウス（パネル展示型説明会）を地区内3会場で開催し、ワークショップ参加者以外の方のご意見を広く伺いました。

地区の皆様のご期待をもとにして、市は、この「三谷地区個別計画」を策定しました。

以下は、ワークショップに参加された皆様から三谷地区の将来を考える上で重視することとしていただいたご意見です。

子育て

学校規模について

- ・競争心を生み学力レベルを上げることや部活動の選択肢を増やすことを考えると、学校の児童生徒数は多い方が良いと思う。

- ・三谷小学校は地区の中心にあるので立地がよく、歴史も古くて地域の象徴的な位置づけだ。

- ・三谷祭の伝統や風習を背景にした三谷のコミュニティを今後も守っていききたい。地域コミュニティの形成や主体的な活動が促進されるような計画となるとよい。

- ・西区では一部竹島小学校に通っている子ども達がいるので、地区住民としての意識が低下し、地区の一体感が欠けてきているように思う。

子どもの居場所

- ・三谷小学校の児童クラブはみや児童館にある。子どもの放課後の居場所として、小学校をもっと活用してほしい。
- ・共働きの家庭が多いので、放課後も安心して子どもが過ごせる場所が必要だ。空き教室などを活用した放課後の活動場所をつくれば、親のニーズに応えられ、地区内の子どもの数も増えるのではないかな。

送迎の利便性

- ・保育園の送迎は車でしている人がほとんどなので、駐車場が充実している方が利便性は高いと思う。

通学の利便性

- ・学校を統合するのならば、子ども達の通学が不便にならないよう対策を練ってほしい。

世代間交流

- ・高齢者と子どもが使う施設を集合させ、お互いがゆるやかにつながるようになると良い。
- ・学校を小さな子どもから高齢者まで多世代が交流できるような施設にできるとよい。

同世代の交流

- ・子育て層が趣味のために利用できる場など同世代が利用できる場、交流できる場が必要だ。

- ・1つの施設が様々な機能を持つことで、利用者が多様化し、利用率のアップや多世代交流の創出などのメリットが生まれると思う。

交流

居場所づくり

- ・放課後の子ども達の居場所、比較的元気な高齢者のための施設、中高生のための学習スペースのある図書館などが地区にあるとよい。

駐車場の確保

- ・施設へのアクセスには車が多いので、施設までの道路の整備や十分な駐車場の確保が必要である。

利便性

利用しやすい施設づくり

- ・公民館はいつも同じような団体が利用しているので、若い層が気兼ねなく利用できるような運営システムを導入してほしい。
- ・公民館は営利目的にも使えるように規制を緩めたり、利用を促すソフトを展開し、祭りや日中の年配層の利用以外にも使われる場にできるとよい。

地区の まとめ

三谷西保育園の安全な場所への移転

- ・三谷西保育園は海に近くて災害の危険性が高いので、安全な立地に移転すべきではないか。

安全

防災

- ・三谷地区は海に近いので、津波や強風などの災害による被害も心配だ。

防犯

- ・学校や保育園と公民館を同じ敷地内に整備すると、不特定多数の人の出入りがあるので防犯面が心配だ。防犯カメラの設置やソフト面の対策を行い、セキュリティ強化をする必要がある。

- ・小学校と保育園を1つの敷地にすると、園児と児童が干渉しあうことによる危険性や騒音、送迎の車との事故が心配だ。

◆ ワークショップでのご意見の詳細やオープンハウス（パネル展示型説明会）でのご意見等は、市ホームページに掲載しています。